Oriental Land Co.,Ltd.

2026年3月期
第2四半期決算

2025年10月30日
株式会社オリエンタルランド

Oriental Land Co.,Ltd.

Ⅰ. 決算概要

Ⅱ. 2026年3月期　業績の見通し

Ⅲ. 組織改正について

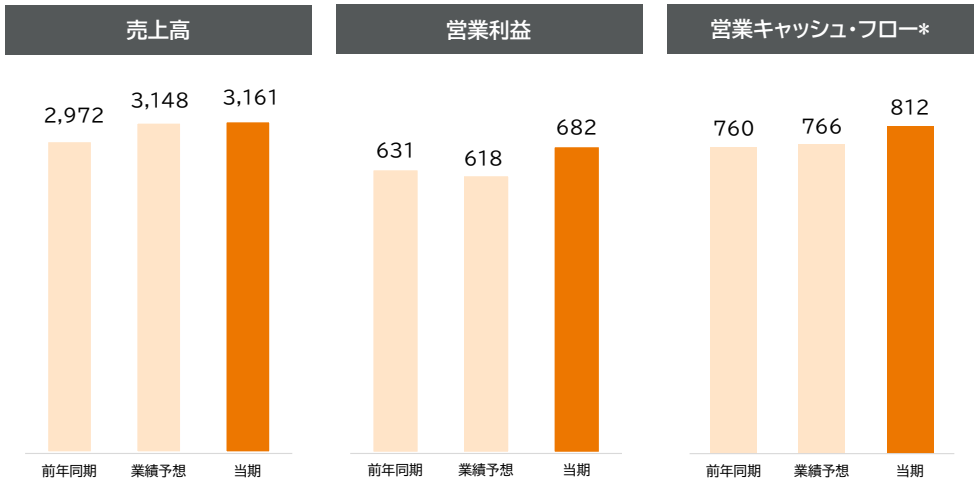
Ⅰ. 決算概要

上半期実績

Oriental Land Co.,Ltd.

ファンタジースプリングスやスペシャルイベントの好調などにより、
連結売上高、営業利益、営業キャッシュ・フロー*は対前年・対業績予想ともに上回った

（億円）



*営業キャッシュ・フロー＝親会社株主に帰属する中間純利益＋減価償却費

As to Disney Properties ©Disney

4

上半期実績

上半期は、ファンタジースプリングスやスペシャルイベントの好調などにより、
連結売上高、営業利益、営業キャッシュ・フローは、
対前年、対業績予想ともに上回りました。

連結売上高、営業キャッシュ・フローは過去最高となっており、
夏の猛暑などの厳しい環境下でも
高い実績を獲得できていると認識しています。

Oriental Land Co.,Ltd.

ゲスト1人当たり売上高の増やホテル収入の増などにより、増収増益

(億円)

連結損益計算書	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,972	3,161	189	6.4%
テーマパーク事業	2,387	2,517	129	5.4%
ホテル事業	502	561	58	11.6%
その他の事業	82	82	0	1.0%
営業利益	631	682	50	8.0%
テーマパーク事業	499	497	△ 2	△ 0.4%
ホテル事業	123	175	51	41.4%
その他の事業	5	6	1	21.1%
経常利益	639	693	53	8.3%
特別利益	2	-	△ 2	-
税金等調整前中間純利益	642	693	50	7.9%
親会社株主に帰属する中間純利益	455	483	27	6.1%

5

上半期実績（前年同期比較）

上半期実績の前年同期比較は、ご覧の通りです。
ゲスト1人当たり売上高の増やホテル収入の増などにより、
増収増益となりました。

上半期実績（前年同期比較）- 主な増減要因

Oriental Land Co.,Ltd.

テーマパーク事業
売上高

入園者数はほぼ同様。前年同期はスペース・マウンテンのクローズ前需要があったものの、当上半期はファンタジースプリングスやスペシャルイベントが好調となった

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高（億円）	2,387	2,517	129	5.4%
入園者数（万人）	1,220	1,225	5	0.4%

入園者数はほぼ同様

- ファンタジースプリングスの好調による増
- スペシャルイベントの好調による増
- 前年同期のスペース・マウンテンのクローズ前需要による減

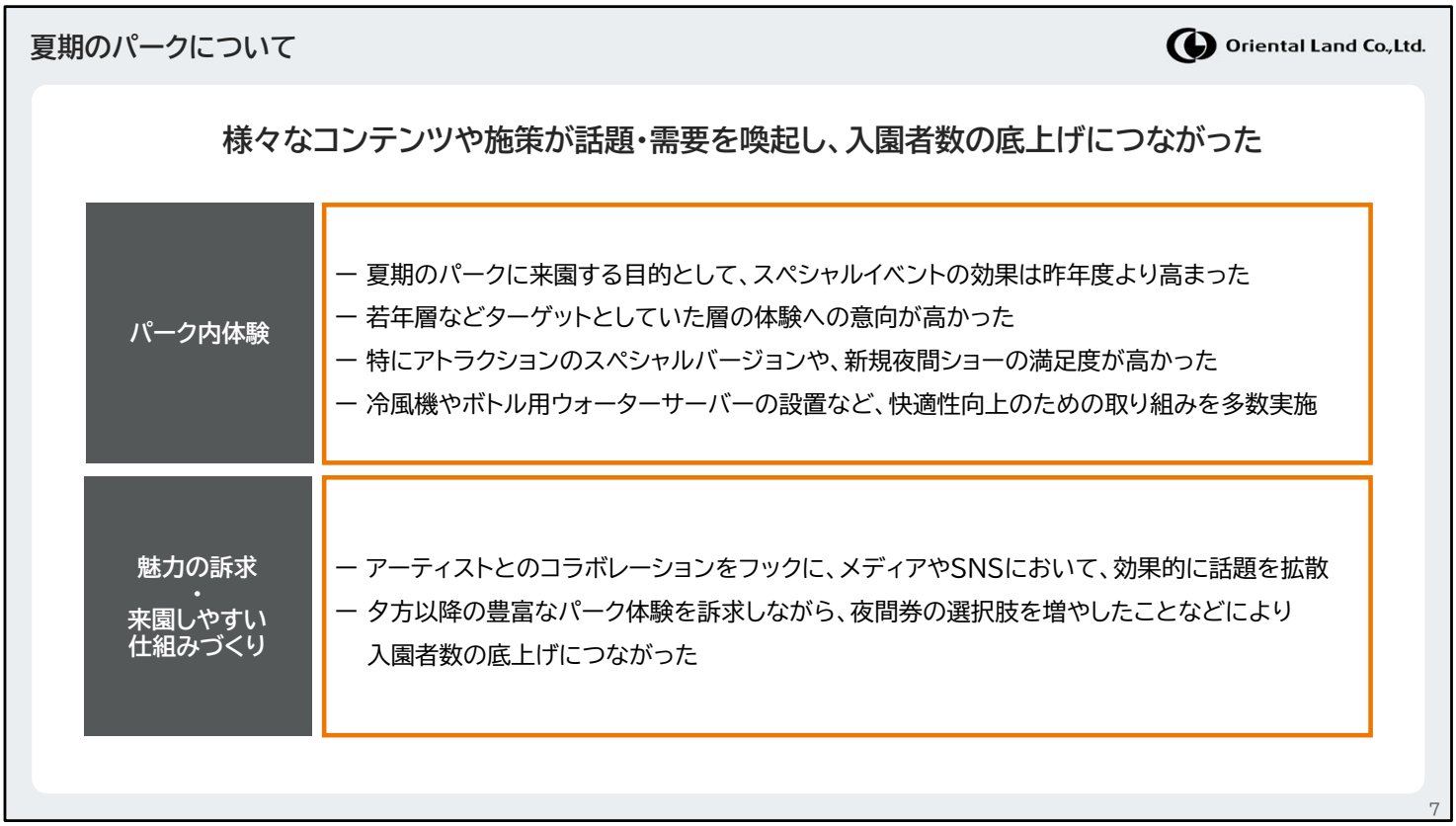
「サマー・クールオフat Tokyo Disney Resort」の広告やコンテンツ

As to Disney Properties ©Disney

上半期実績（前年同期比較） – 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、129億円増の2,517億円となりました。

入園者数は、ほぼ同様となりました。
前年同期はスペース・マウンテンのクローズ前需要による減があったものの、
当上半期は、ファンタジースプリングスやスペシャルイベントが好調となりました。



<u>夏期のパークについて</u>

前期の猛暑を受け、今期は夏期の需要を喚起できるよう準備を重ねてきました。
ターゲットを絞り、そのターゲットに刺さるコンテンツや施策を導入すること、
パークの魅力を訴求しながら、来園しやすい仕組みづくりを整備することを方針とし、
スペシャルイベント「サマー・クールオフat Tokyo Disney Resort」を展開しました。

その結果、特に夏休み期間において、「サマー・クールオフat Tokyo Disney Resort」は
夏期のパークに来園する目的として寄与していたことや、ターゲットの体験への意向が高かったことから、
話題・需要を喚起し、入園者数の底上げに効果的であったと捉えています。

また、夕方以降の豊富なパーク体験を訴求しながら、
夜間券の選択肢と販売枠数を増やして発売した結果、
入園者数の底上げにつながりました。

夏期のパークについて

Oriental Land Co.,Ltd.

快適性向上のための取り組みとして、様々な施策を積極的に実施

ゲストの待機列に冷風機の設置

パークグッズ用ウォーターサーバー

トゥーンタウンのびしょ濡れスポット

タープと保水性舗装

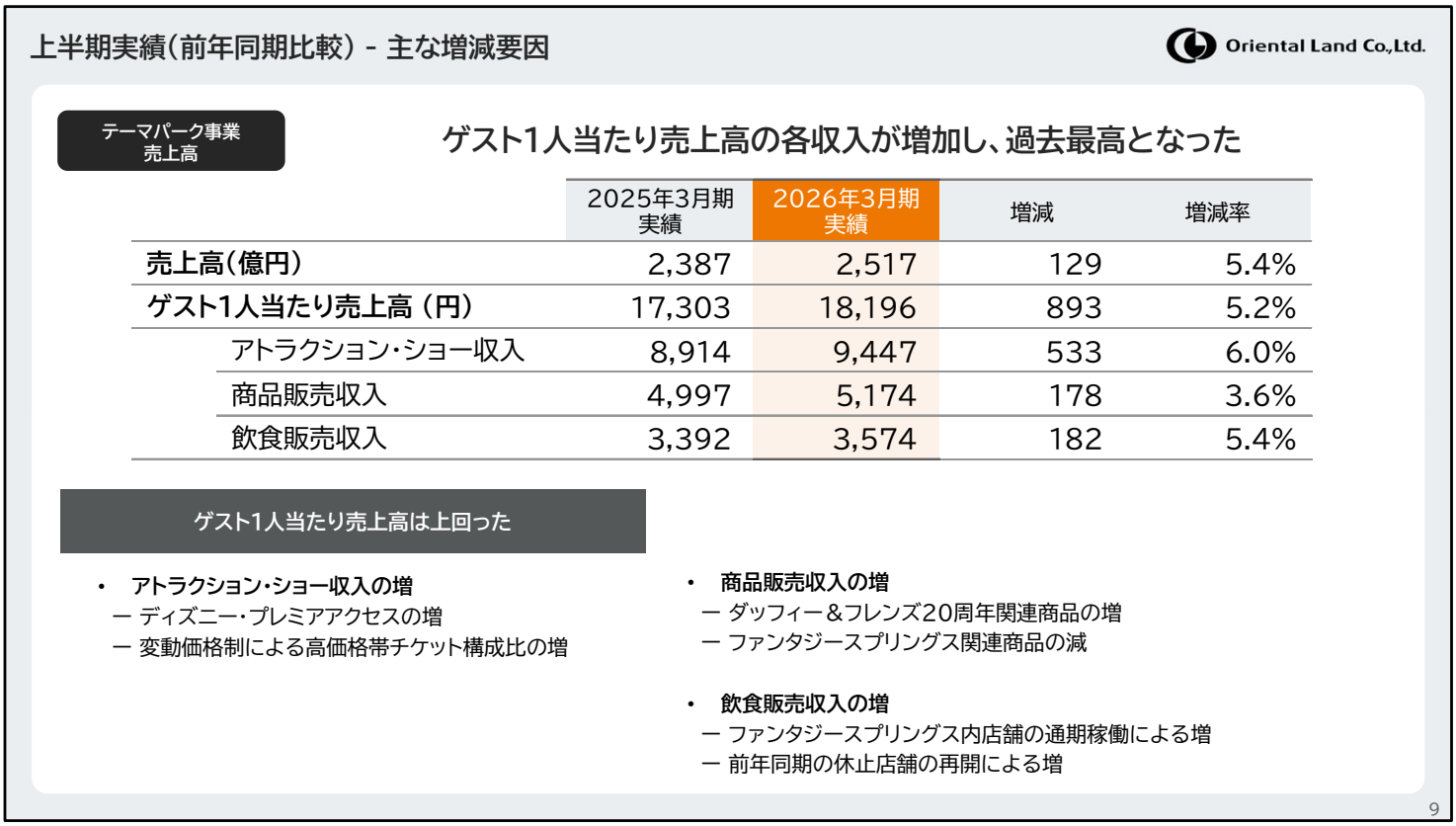
As to Disney Properties ©Disney

8

<u>夏期のパークについて</u>

快適性向上のための投資は積極的に実施をしております。
タープや、びしょ濡れスポット、冷風機などの設置の様子はご覧のとおりです。

来期以降も、夏にしか体験できない特別なパークを創り上げるべく、
集客コンテンツとして有効な施策を積極的に推進し、
夏のテーマパークの体験価値を高めていきます。



上半期実績（前年同期比較） ー 主な増減要因

ゲスト1人当たり売上高は、各収入が増加し、過去最高となりました。

アトラクション・ショー収入は、
ディズニー・プレミアアクセスの増や、
変動価格制による高価格帯チケット構成比の増などにより増加しました。

商品販売収入は、
ファンタジースプリングス関連商品の初期需要の落ち着きにより減したものの、
ダッフィー＆フレンズ20周年関連商品の増などにより、増加しました。

飲食販売収入は、
ファンタジースプリングス内店舗の通期稼働や、
前年同期の休止店舗の再開などにより、増加しました。

上半期実績（前年同期比較）- 主な増減要因

Oriental Land Co.,Ltd.

テーマパーク事業
営業利益

諸経費や人件費などが増加したものの、売上高の増などによりほぼ同様

（億円）

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,387	2,517	129	5.4%
営業利益	499	497	△ 2	△ 0.4%

営業利益はほぼ同様

（億円）

売上高の増		諸経費の増	△ 54
商品・飲食原価率の減	5	システム関連費用の増	△ 17
人件費の増	△ 44	メンテナンス費の増	△ 15
正社員人件費の増	△ 19	租税公課の増	△ 9
準社員人件費の増	△ 14	その他	△ 11
その他	△ 11	減価償却費の増	△ 17
		新規資産取得による増など	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

10

<u>上半期実績（前年同期比較） – 主な増減要因</u>

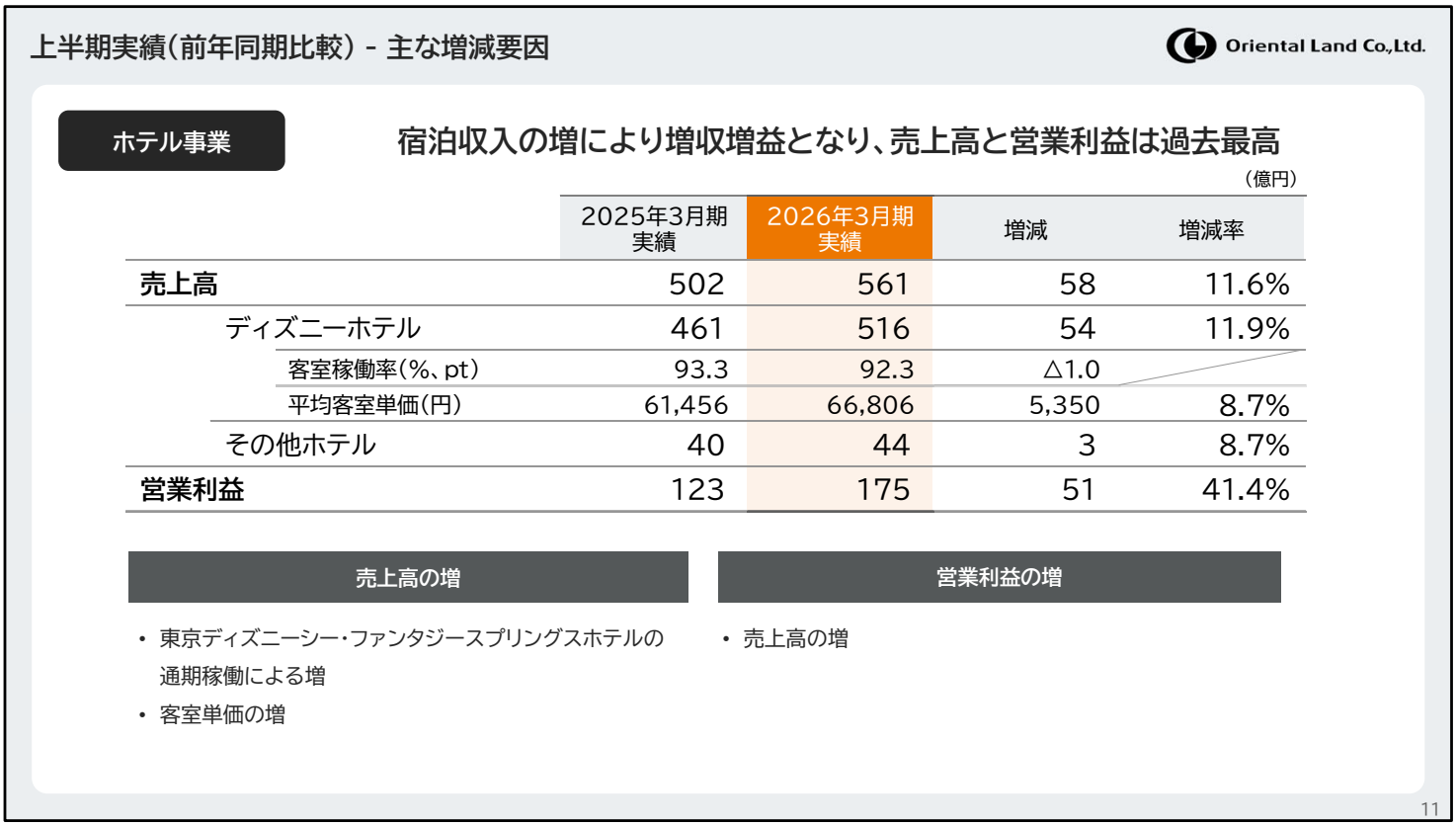
テーマパーク事業の営業利益は、
2億円減の、497億円となりました。

商品・飲食原価率は、
飲食原価率が製造経費率の増により増加したものの、
商品原価率が、前年同期に実施した販売価格の調整を実施しなかったことなどにより減少し、
全体として減少しました。

人件費は、
賃金改定や人数増などにより、増加しました。

諸経費は、
IT機器の入れ替えによるシステム関連費用の増や、
投資振替経費によるメンテナンス費の増などにより、
増加しました。

減価償却費は、
ファンタジースプリングスの通期稼働などにより、増加しました。



上半期実績（前年同期比較） – 主な増減要因

ホテル事業は、
東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルの宿泊収入の増や、
客室単価の増などにより、
売上高は、58億円増の561億円となりました。

上半期のディズニーホテルにおける
客室稼働率は、
バケーションパッケージ経由の予約の減により、1ポイント減の92.3%、
平均客室単価は、
5,350円増の66,806円でした。

営業利益は、
売上高の増などにより、51億円増の175億円となりました。

Oriental Land Co.,Ltd.

その他の事業

その他の事業は増収増益

（億円）

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	82	82	0	1.0%
営業利益	5	6	1	21.1%

売上高の増

- イクスピアリ事業の増

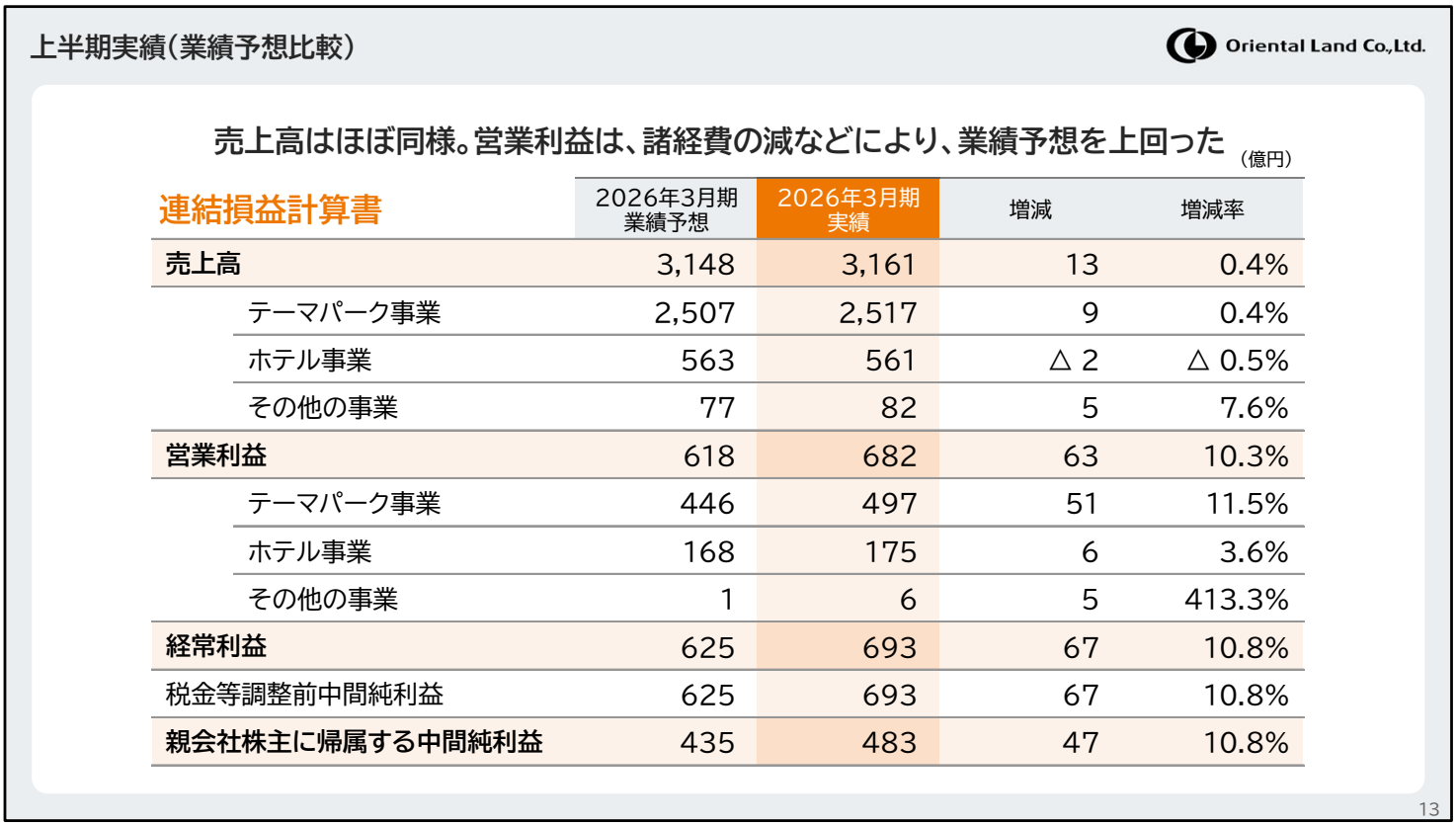
営業利益の増

- 売上高の増
- 諸経費の減

上半期実績（前年同期比較） – 主な増減要因

その他の事業の売上高は、
イクスピアリ事業の増などにより、82億円でした。

営業利益は、売上高の増や諸経費の減などにより、
1億円増の6億円となりました。



上半期実績（業績予想比較） – 主な増減要因

業績予想比較は、ご覧のとおりです。

売上高は、ほぼ同様となりました。
営業利益は諸経費の減などにより、業績予想を上回りました。

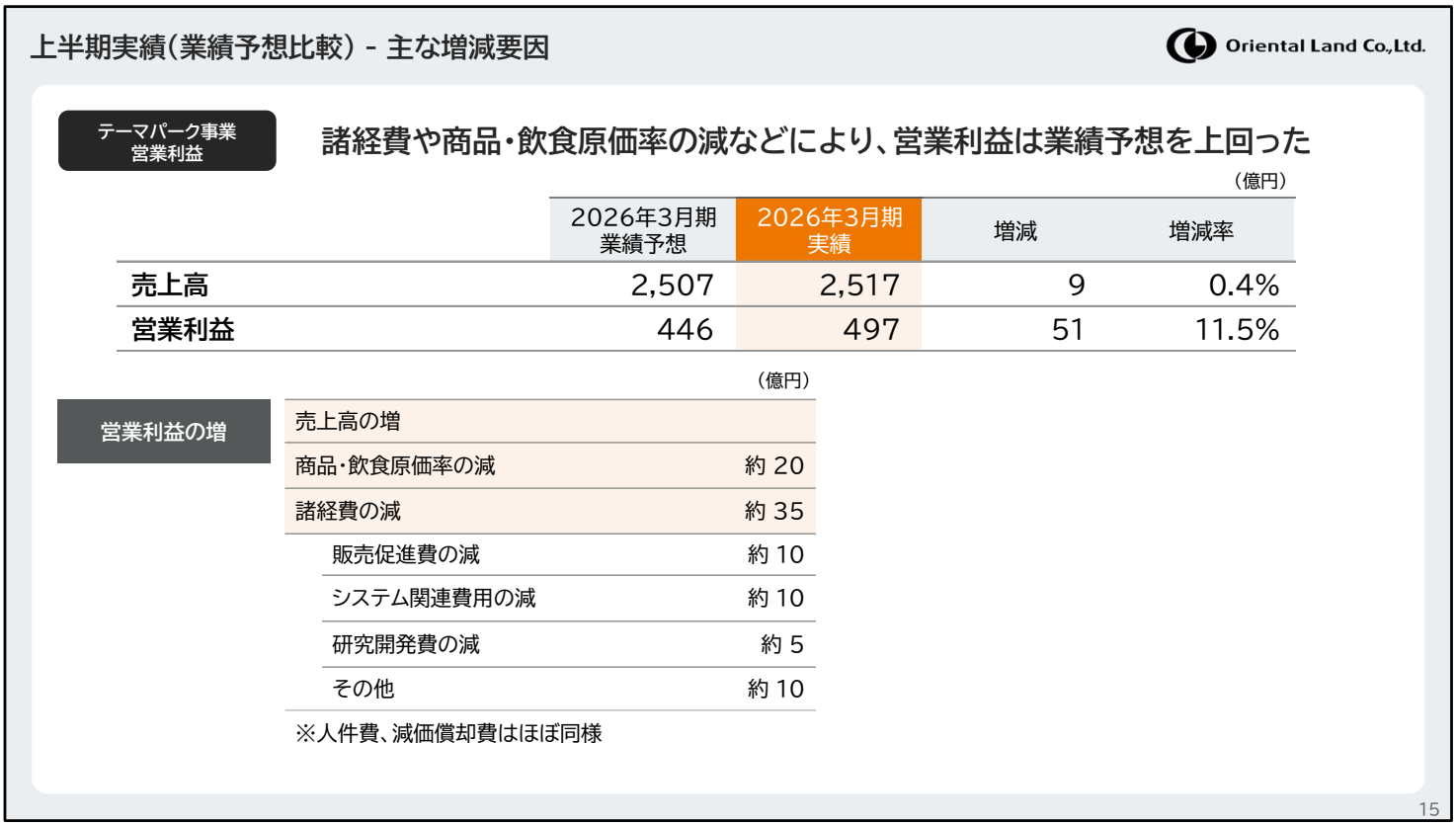
セグメント別の実績と増減要因をご説明します。

上半期実績（業績予想比較） ー 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、9億円上回りました。

入園者数は、
前年同期のスペース・マウンテンのクローズ前需要による減があったものの、
ファンタジースプリングスやスペシャルイベントの好調などにより、ほぼ同様となりました。

ゲスト1人当たり売上高は、
レギュラー商品の増などによる商品販売収入の増や、
スペシャルイベント関連メニューなどの増による飲食販売収入の増により、
全体としては若干上回りました。



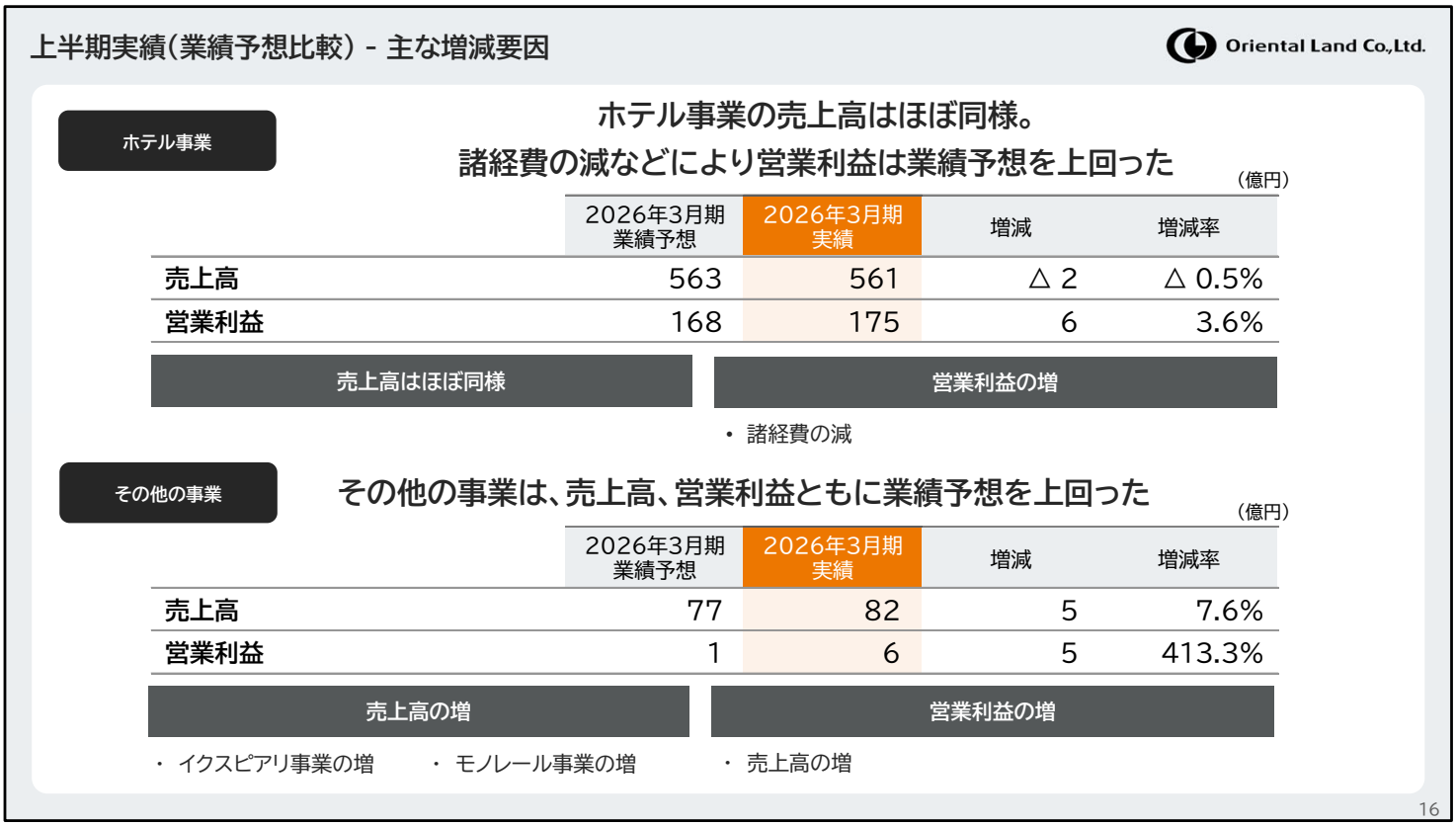
上半期実績（業績予想比較） – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
諸経費の減や商品・飲食原価率の減などにより、
51億円上回りました。

商品・飲食原価率は、
陳腐化評価損の減や、商品売上構成比の変化などにより、
商品原価率が減したことなどから、
下回りました。

諸経費は、
販売促進費の時期ずれによる減や、
計画変更によるシステム関連費用の減などにより、
下回りました。

なお、人件費、減価償却費は、
ほぼ同様となりました。



上半期実績（業績予想比較） – 主な増減要因

ホテル事業は、
売上高はほぼ同様となりました。
営業利益は、諸経費が減少したことなどから、6億円上回りました。

その他の事業は、
売上高は5億円、営業利益は5億円上回りました。

Ⅱ. 2026年3月期 業績の見通し

2026年3月期 業績の見通し

Oriental Land Co.,Ltd.

現時点では、2026年3月期業績予想を据え置く。第4四半期まで様々な施策を展開していく

2026年3月期業績予想について

上半期は業績予想と比較して増益となったものの、第3四半期以降がテーマパーク入園者数の
ボリュームゾーンであることなどから、**現時点では、2026年3月期業績予想を据え置く**

▼第4四半期のスペシャルイベント、施策について

スペシャルイベント	「ディズニー・パルパルーザ」第5弾 「ミニーのファンダーランド」 （東京ディズニーランド®、2026年1月14日～2026年3月2日）
新規エンターテイメント	「ダンス・ザ・グローブ！」 （東京ディズニーシー® ウォーターフロントパーク新規ショー 2026年1月14日～2027年3月31日）
チケット施策	・「カレッジパスポート（期間限定）」 大人7,000円～9,000円 ・「1デーパークホッパーパスポート（期間限定）」 大人14,500円～18,900円

As to Disney Properties ©Disney

2026年3月期 業績の見通し

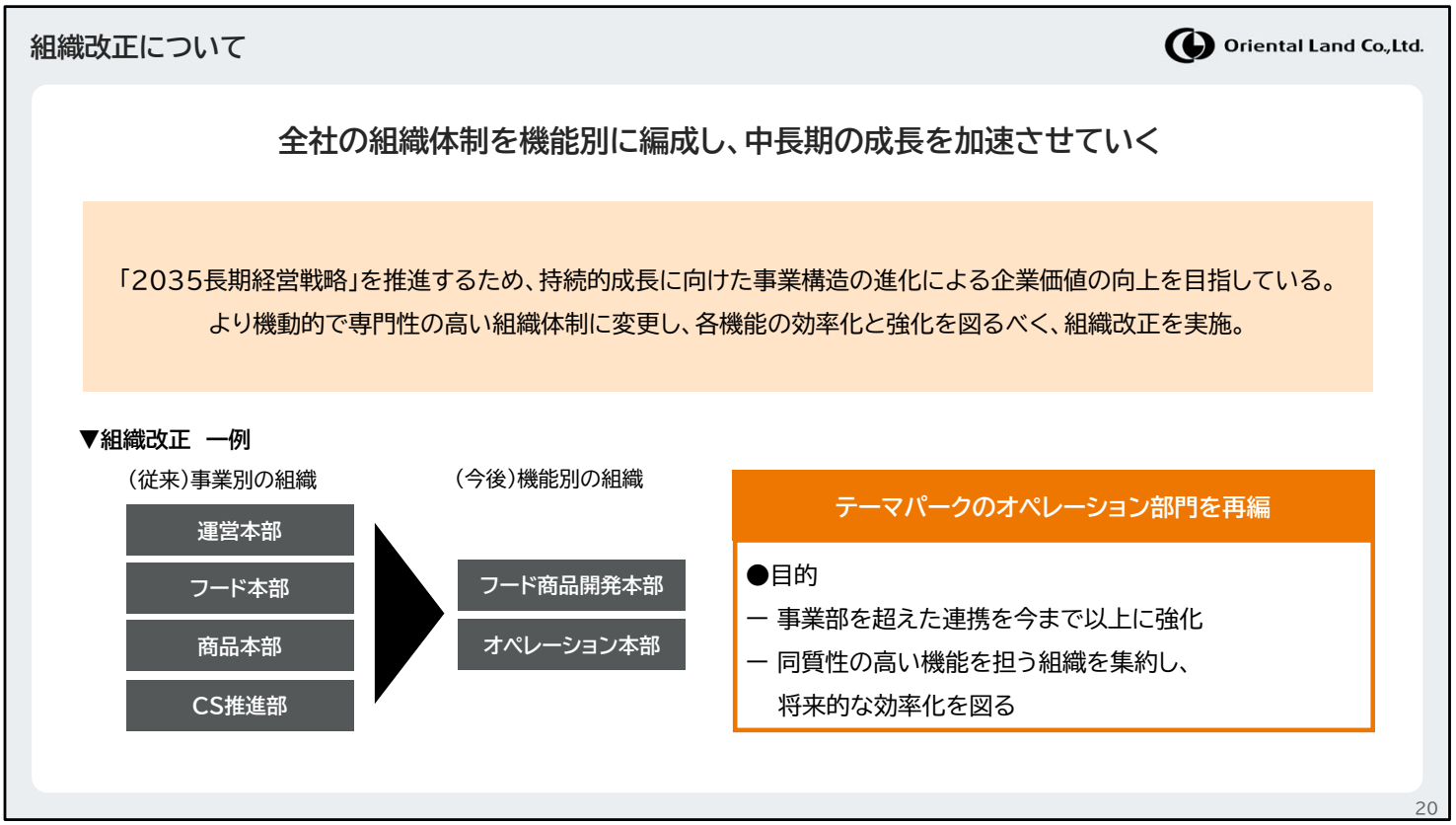
上半期は業績予想と比較して増益となったものの、
第3四半期以降がテーマパーク入園者数のボリュームゾーンであることや、
上半期の増益要因の1つが諸経費の時期ずれであることなどから、
現時点では、2026年3月期業績予想を据え置く判断をしました。

下半期もストレッチな目標を掲げておりますが、
高い需要が見込まれる第3四半期はもちろんのこと、
第4四半期まで様々な施策を導入していきます。

1月14日から3月2日の間、2024年に大変ご好評いただいた
「ディズニー・パルパルーザ」の「ミニーのファンダーランド」に、
新たな夜の環境演出を加え、展開します。
さらに、東京ディズニーシーの新たなエンターテイメントの導入や、
多様なゲストニーズに応えるチケット券種の展開を行います。

準備している施策を着実に実施しながら、
期初に掲げた目標を達成できるよう努めてまいります。

Ⅲ. 組織改正について



組織改正について

先日発表のとおり、11月1日より大規模な組織改正を行うこととしました。

2025年4月に2035長期経営戦略を発表し推進してきましたが、
より機動的で専門性の高い組織体制に変更することで、
各機能の効率化と強化を図ってまいります。

例えば、従来は
アトラクションやパーク運営を管轄する運営本部、フード本部、商品本部など、
事業別に組織が分かれていました。
今後はこれらを統合し、フード商品開発本部とオペレーション本部に再編します。
これにより、今まで以上に連携が強化され、
ゲストに新しい体験価値を提供できるようになることを期待しています。
また、同質性の高い機能を集約することにより、将来的な効率化にもつながると考えています。

他にも経営戦略本部の再編や、コーポレートコミュニケーション部の新設など
様々な改正を行っており、2035長期経営戦略の実現に向けて、
よりスピードを加速させていきたいと決意を新たにしています。

皆様におかれましては、今後も当社グループへのご支援、ご鞭撻のほど
どうぞよろしくお願いいたします。

Appendix

「ディズニー・プレミアアクセス」の対象

Oriental Land Co.,Ltd.

パーク内施設等の体験時間や入場時刻を指定して予約できる有料のサービス。少ない待ち時間で施設の利用が可能

東京ディズニーランド アトラクション	導入日	価格
美女と野獣“魔法のものがたり”	2022年5月19日	¥2,000
スプラッシュ・マウンテン	2022年12月1日	¥1,500
ベイマックスのハッピーライド	2022年12月1日	¥1,500

東京ディズニーランド エンターテイメント		導入日	価格
ディズニー・ハーモニー・イン・カラー		2023年4月15日	¥2,500
東京ディズニーランド・エレクトリカルパレード・ドリームライツ		2023年4月15日	¥2,500
Reach for the Stars		2024年9月20日	¥2,500
ミッキーのマジカルミュージックワールド		2024年11月13日	¥2,500
クラブマウスビート		2024年11月13日*1	¥2,500
ディズニー・パルパルーザ クワッキーセレブレーション★ ドナルド・ザ・レジェンド！	終了	2025年4月8日*2	¥2,500
ザ・ヴィランズ・ハロウィーン“Into the Frenzy”		2025年9月17日*3	¥2,500
トイズ・ワンダラス・クリスマス！		2025年11月11日*4	¥2,500
ディズニー・パルパルーザ ミニー@ファンダーランド		2026年1月14日*5	¥2,500

※2025年10月30日時点で公表しているものを記載しています。
*1 2026年3月30日で販売終了予定です。
*2 2025年4月8日～6月30日の間、対象でした。
*3 2025年9月17日～10月31日の間、対象です。
*4 2025年11月11日～12月25日の間、対象です。
*5 2026年1月14日～3月2日の間、対象です。

「ディズニー・プレミアアクセス」の対象

Oriental Land Co.,Ltd.

パーク内施設等の体験時間や入場時刻を指定して予約できる有料のサービス。少ない待ち時間で施設の利用が可能

東京ディズニーシー　アトラクション	導入日	価格
ソアリン：ファンタスティック・フライト	2022年5月19日	¥2,000
トイ・ストーリー・マニア！	2022年6月10日	¥2,000
タワー・オブ・テラー	2022年12月9日	¥1,500
センター・オブ・ジ・アース	2022年12月9日	¥1,500
アナとエルサのフローズンジャーニー	2024年6月6日	¥2,000
ラプンツェルのランタンフェスティバル	2024年6月6日	¥2,000
ピーターパンのネバーランドアドベンチャー	2024年6月6日	¥2,000

東京ディズニーシー　エンターテイメント		導入日	価格
ビリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～		2022年11月11日	¥2,500
ビッグバンドビート ～ア・スペシャルトリート～*1	終了	2024年11月13日	¥2,500
ドックサイド・スプラッシュ・リミックス	終了	2025年7月2日*2	¥2,500
ドリームス・テイク・フライト		2025年7月16日	¥2,500

※2025年10月30日時点で公表しているものを記載しています。
*1　2025年9月30日で終了しました。
*2　2025年7月2日～9月15日の間、対象でした。

「東京ディズニーリゾート40周年記念プライオリティパス」の対象

Oriental Land Co.,Ltd.

指定された時間に短い待ち時間で施設をご利用いただける無料のサービス

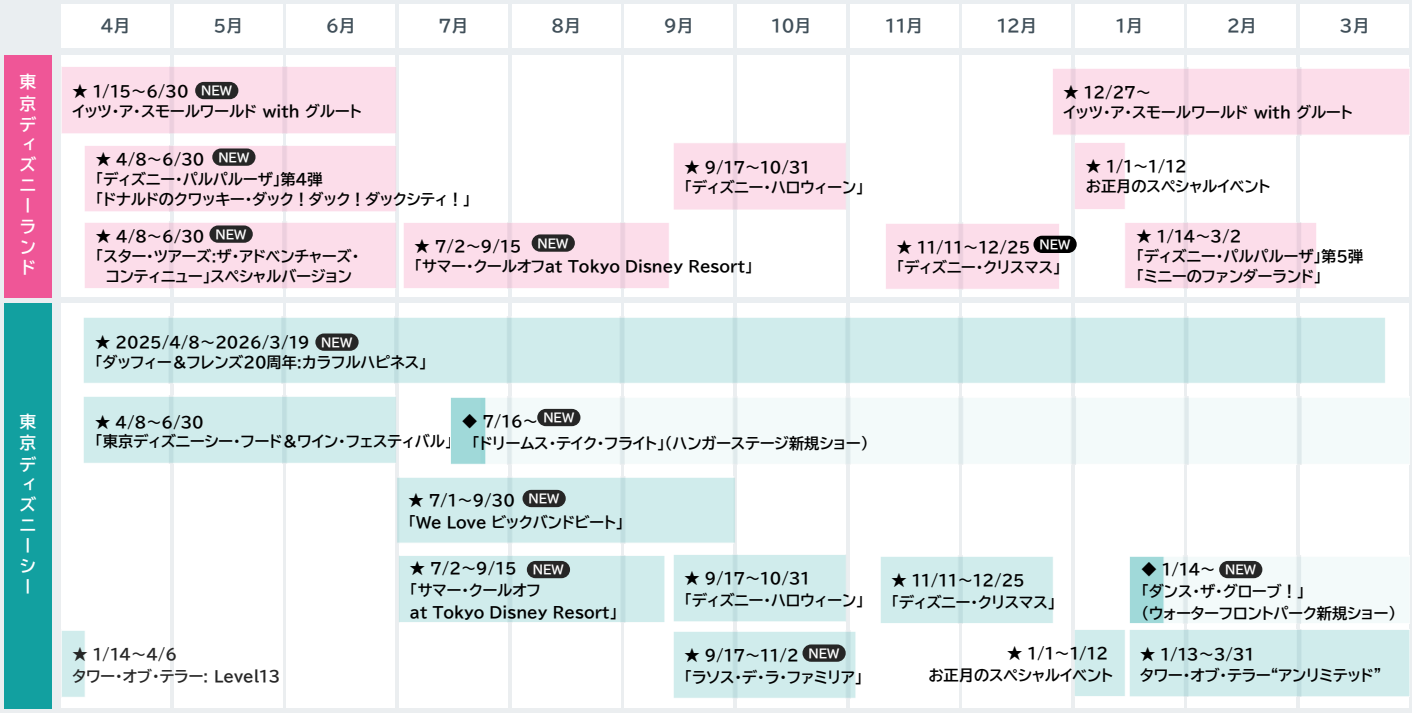
東京ディズニーランド　アトラクション	東京ディズニーシー　アトラクション
スター・ツアーズ：ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー	アクアトピア“びしょ濡れ”バージョン* 終了
ビッグサンダー・マウンテン	インディ・ジョーンズ®・アドベンチャー：クリスタルスカルの魔宮
プーさんのハニーハント	海底2万マイル
ホーンテッドマンション	タートル・トーク
モンスターズ・インク“ライド＆ゴーシーク！”	ニモ＆フレンズ・シーライダー
	マジックランプシアター
	レイジングスピリッツ

※2025年10月30日時点で公表しているものを記載しています。
＊2025年7月2日～9月30日の間、対象でした。

24

2026年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

Oriental Land Co.,Ltd.



※イベントの名称、開催期間は変更になる場合があります。※2025年10月30日時点で公表しているものを記載しています。

★ スペシャルイベント・プログラム　◆ 新規アトラクション・ショーなど

投資額・償却費　上半期実績（前年同期比較）

Oriental Land Co.,Ltd.

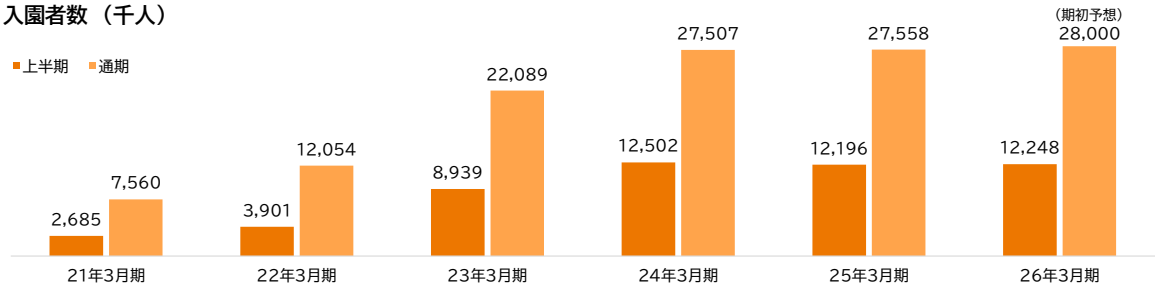
（億円）

投資額（有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用）	2025/3 実績	2026/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	224	284	59	
東京ディズニーランド	145	162	17	スペース・マウンテンの増 『シュガー・ラッシュ』の世界を舞台としたアトラクションの増
東京ディズニーシー	497	49	△ 447	*前年同期、東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの投資額の一部を その他から東京ディズニーシーに固定資産計上したことによる減 更新改良の増
その他	△ 418	71	490	*前年同期、東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの投資額の一部を その他から東京ディズニーシーに固定資産計上したことによる増 更新改良の増
ホテル事業	58	8	△ 50	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他の事業	207	30	△ 176	クルーズ事業の減
（消去又は全社）	△ 1	△ 0	0	
合計	488	322	△ 166	

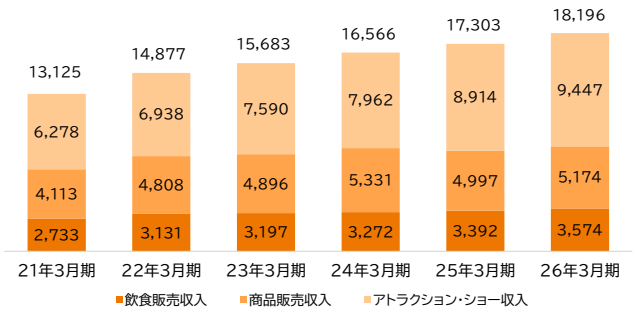
償却費（有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用）	2025/3 実績	2026/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	258	276	17	
東京ディズニーランド	84	75	△ 8	
東京ディズニーシー	126	155	28	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの増
その他	48	45	△ 2	
ホテル事業	32	38	6	
その他の事業	14	14	0	
（消去又は全社）	△ 0	△ 0	0	
合計	305	329	24	

Oriental Land Co.,Ltd.

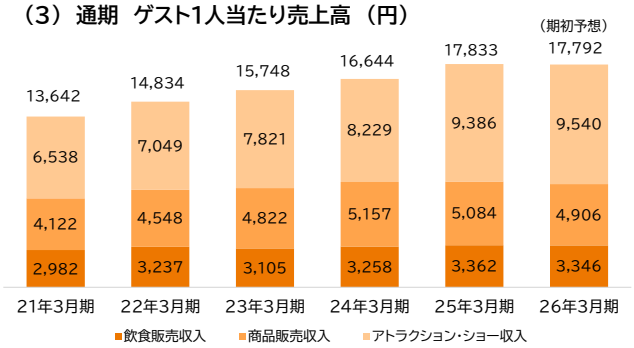
（1）入園者数（千人）



（2）上半期 ゲスト1人当たり売上高（円）



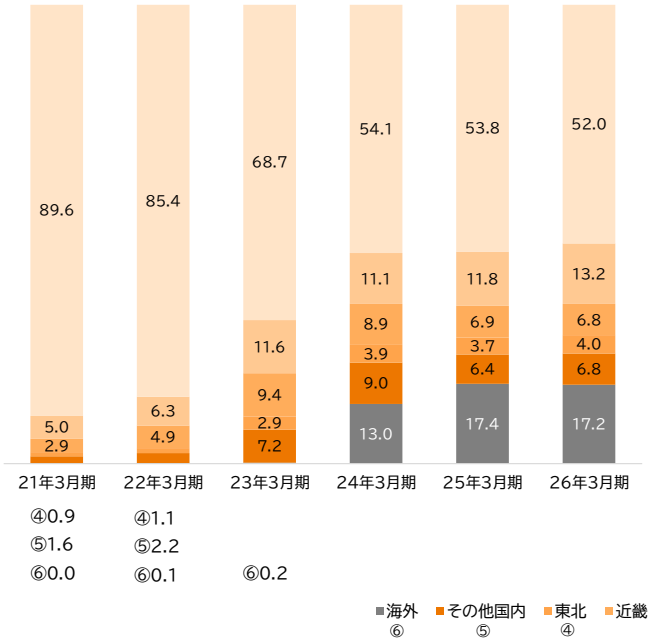
（3）通期 ゲスト1人当たり売上高（円）



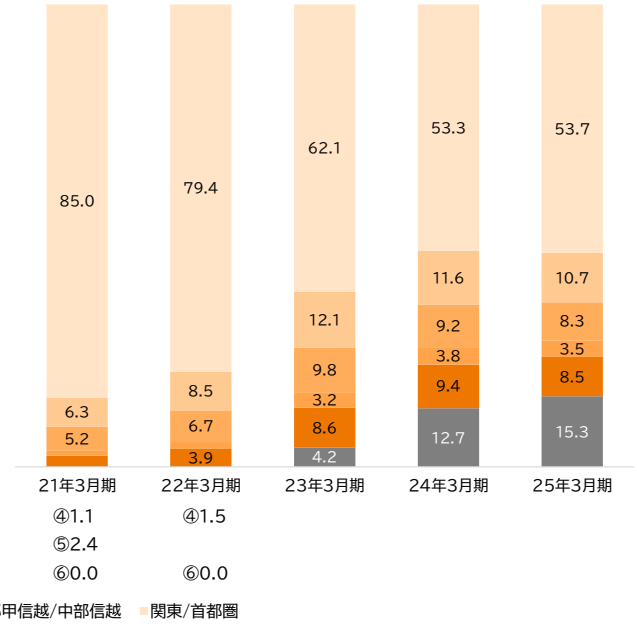
※2022年3月期以前の実績はチケット収入、2023年3月期以降の実績はアトラクション・ショー収入です。

Oriental Land Co.,Ltd.

（4）上半期 地域別来園者比率



（5）通期 地域別来園者比率（～2025年3月期）



■海外 ⑥ ■その他国内 ⑤ ■東北 ④ ■近畿 ■中部甲信越/中部信越 ■関東/首都圏

＊'23/9より集計方法を変更しました。

連結貸借対照表（実績/前期末）

Oriental Land Co.,Ltd.

（億円）

連結貸借対照表	前期末	当中間期末	増減
A.資産の部			
流動資産	5,253	4,807	△ 445
固定資産	9,131	9,277	146
資産合計	14,385	14,085	△ 299
B.負債の部			
流動負債	2,358	1,679	△ 679
固定負債	2,252	2,118	△ 133
負債合計	4,611	3,798	△ 812
C.純資産の部			
株主資本	9,610	9,999	389
その他の包括利益累計額	163	287	123
純資産合計	9,774	10,287	513
負債純資産合計	14,385	14,085	△ 299

【A. 資産の部 299億円の減(2.1%減)】

Ⅰ. 流動資産 445億円の減

(1)有価証券の減	△689 億円
(2)現金及び預金の増	177 億円

Ⅱ. 固定資産 146億円の増

(1)減価償却による減	△329 億円
(2)設備投資による増	322 億円
(3)投資有価証券・その他の増	156 億円

【B. 負債の部 812億円の減(17.6%減)】

Ⅰ. 流動負債 679億円の減

(1)その他(主に未払金)の減	△276 億円
(2)1年内償還予定の社債の減	△200 億円
(3)未払法人税等の減	△138 億円

Ⅱ. 固定負債 133億円の減

(1)社債の減	△200 億円
(2)その他(主に繰延税金負債)の増	63 億円

【C. 純資産の部 513億円の増(5.2%増)】

Ⅰ. 株主資本 389億円の増

(1)利益剰余金の増	368 億円
・親会社株主に帰属する中間純利益による増	483 億円
・配当による減	△114 億円

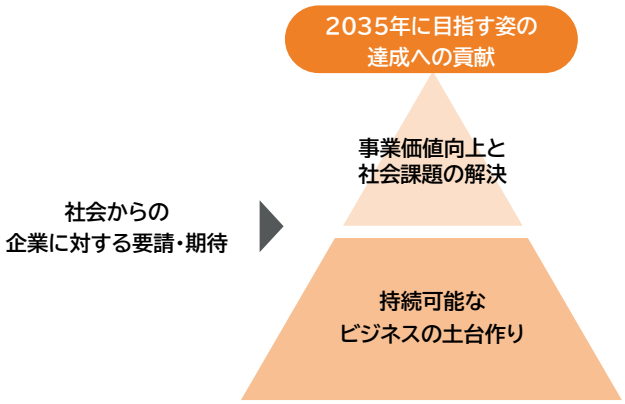
Ⅱ. その他の包括利益累計額 123億円の増

(1)繰延ヘッジ損益の増	85 億円
(2)その他有価証券評価差額金の増	39 億円

マテリアリティの更新

Oriental Land Co.,Ltd.

2025年10月にマテリアリティのKPIを更新 （更新箇所：次項以降にて赤字）



ESGマテリアリティ

- 従業員の幸福
- 子どものハピネス
- 更新 循環型社会 → P.37

- ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン
- サプライチェーン・マネジメント
- 更新 気候変動・自然災害 → P.35
- 経営基盤の強化

マテリアリティの更新

Oriental Land Co.,Ltd.

従業員の幸福

ありたい姿	従業員が心から誇れる企業であり続けるために、仕事のやりがい(働くことによって得られる達成感)の向上と働きやすさ(社内環境や制度)の整備により、 従業員が働く喜びを感じながら新しい価値を生み出し続けます。
2030KPI	「エンゲージメント調査」総合スコア:71(OLCグループ)
2027KPI*	「エンゲージメント調査」総合スコア　2024年度より向上(OLCグループ) ※総合スコアに影響が大きい以下の項目スコアを毎年度向上 ●職務　　:職務における能力発揮と自己効力感 ●自己成長 :仕事を通じた達成感と成長実感 ●人間関係 :パークオペレーションにおける最前線のキャストと上司とのコミュニケーション時間の創出 ●環境　　:職場施設の環境、処遇の納得感、働き方などの衛生要因への満足度など、働く安心感の確保
2027年までの活動計画	【実態把握】　エンゲージメント調査の定期実施、エンゲージメント調査結果を活用した現状分析と課題特定 【実態づくり】「対話」の促進(風土醸成)に向けた、取り組みの検討、実施 従業員が一歩踏み出せる、エンゲージメントの高い組織づくりに向けた、各組織主体の取り組みのサポート 働く安心感の確保に向けた施策の検討 (職場施設の環境改善、両立支援の拡充、多様な働き方強化、処遇の改善、心と体の健康支援) 【実感づくり】 従業員の実感の向上に向けた発信 (社内報での各取り組みの周知など)

マテリアリティの更新

Oriental Land Co.,Ltd.

子どものハピネス

ありたい姿	未来をひらく子どもたちの夢や心を育むことで、事業と社会の豊かな未来を実現します。
2030KPI	2027KPIまでの活動を進化させ、子どもたちをさまざまな角度から支援する
2027KPI	子どもたちが幸せな気持ちを抱いたり、子どもたち自身がなりたい姿/ありたい姿を実現することを支援する活動の実施
2027年までの活動計画	【東京ディズニーリゾート】 子どもも楽しめるコンテンツの充足と過ごしやすさの向上など、長期経営戦略に則った取り組みを推進 【社会貢献】 既存活動のブラッシュアップ（職場体験、ダンス出張授業など） 【クルーズ】 ファミリーエンターテイメントクルーズという当社ならではのレジャーを通じた、子どもたちの夢や心を育む取り組みの実施 2025年度より東京都連携協定での活動などを実施予定

32

Oriental Land Co.,Ltd.

ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン

ありたい姿		人権ならびに従業員・顧客の多様性を尊重する取り組みを実施することで、誰もが自分らしく働け、自分らしく楽しめる環境を維持し続けます。
2030KPI	人権の尊重	特定した重要人権課題に対する人権デューデリジェンスの高度化と、グループ会社の人権デューデリジェンスの拡大
	顧客の多様性の尊重	多様性を尊重した活動ができる仕組みの構築
	従業員の多様性の尊重	多様性が尊重され、あらゆる人が活躍できる環境の構築
2027KPI	人権の尊重	• ギャップ分析を踏まえた重要人権課題の見直し、新たな重要人権課題の脆弱なライツホルダーに対する是正と救済、予防的措置の実施 • 「従業員」「顧客」「取引先」の領域における人権デューデリジェンスの継続、およびグループ会社の人権デューデリジェンスの開始
	顧客の多様性の尊重	• 「ダイバーシティ＆インクルージョン ハンドブック」改訂版の発行、学習機会を提供した従業員の割合： 100% • 多様性を受け入れ、行動ができる従業員の割合：2025年度中に確定
	従業員の多様性の尊重	• 女性管理職比率： 25%以上 （オリエンタルランド単体） • 男性育休取得率： 95%以上 （オリエンタルランド単体）
2027年までの活動計画	人権の尊重	• 「従業員」「顧客」「取引先」の領域について、人権デューデリジェンスのプロセスを回しながら、必要な対応を実施する • 重要人権課題ごとに、脆弱なライツホルダーに対して不足する取り組みへの対応を順次進める
	顧客の多様性の尊重	• 「ダイバーシティ＆インクルージョン ハンドブック」発行に際し、インプットに加えてアウトプットの時間を設けることで従業員への浸透を強化 • ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンの啓発をあらゆる階層に対して複層的に行うことで、事業活動に多様性を反映できる素地を拡大する
	従業員の多様性の尊重	【ジェンダー】 両立支援の拡充や、キャリア支援の実施 【障がい】 法定雇用率の達成と職域の拡大 【言語・文化】 外国人の雇用環境の整備に向けた検討 【高齢者】 年齢に関わらず生き生きと働ける環境整備 【性的マイノリティ】 継続的な啓発、施設面の対応

33

Oriental Land Co.,Ltd.

サプライチェーン・マネジメント

ありたい姿	取引先に対するエンゲージメントの強化および持続可能な原材料調達などの取り組みによって持続可能なサプライチェーンを実現します。		
2030KPI	取引先とのエンゲージメント	一次サプライヤーへ「調達方針」「OLCグループお取引先行動指針」の周知と承認100%	
	人権・環境リスクが高い品目への対応	社内で特定した品目について持続可能な原材料調達100%	
2027KPI/2027年までの活動計画	取引先とのエンゲージメント	• 重要な取引先へのインタビューまたは監査実施率100% • セルフアセスメントシート回答結果をもとにした、リスク懸念のあるサプライヤーへの是正支援実施100%	
	人権・環境リスクが高い品目への対応	パーム油	原材料として調達するパーム油を持続可能性に配慮されたものへ切り替え
		シーフード	原材料として調達する一部を持続可能性に配慮されたものへ切り替え
		木材	持続可能な木材調達の運用
		紛争鉱物	責任ある鉱物調達の実現に向けて、取引先へ「OLCグループお取引先行動指針」に承認頂いている
		テキスタイル	テーマパーク商品施設で販売するTシャツの原材料を持続可能性に配慮した調達へ切り替え
		紙	テーマパーク施設で取り扱う紙の一部を持続可能性に配慮されたものへ切り替え

34

Oriental Land Co.,Ltd.

気候変動・自然災害

ありたい姿	2050年温室効果ガス排出量ネットゼロを目指し、気候変動の緩和・適応への対応、および、水資源の適切な管理を含めた生物多様性の保全を行うことで、事業と社会の持続可能性を高めます。	
2030KPI	スコープ1・2	温室効果ガス排出量： 2024年度比42%削減
	スコープ3	温室効果ガス排出量： 2024年度比25%削減（対象：カテゴリー1,2）
	適応	2027年度までに作成
	水	2027年度までに作成
	生物多様性	環境アセスメント後、リスク・影響に鑑みて作成
2027KPI	スコープ1・2	スコープ1・2： 温室効果ガス排出量 2024年度比17%削減 スコープ1： ガス使用量の削減、燃料の変更などを検討・実行している状態
	スコープ3	スコープ3排出量： 2024年度比5%削減（対象：カテゴリー1,2）
	適応	適切な暑さ対策の実施、顕在化している豪雨、暴風等への対策の実施
	水	上水取水量： 2024年度比1%削減
	生物多様性	TNFDフレームワークに即した開示

Oriental Land Co.,Ltd.

気候変動・自然災害

2027年までの活動計画	スコープ1	• セントラル・エネルギー・プラント熱源更新 • ジェネレーター、ボイラーにおける更新計画の立案 • エンターテイメント、アトラクション関連機器の電動化 • 社用車のEV化導入準備 • 厨房のオール電化など厨房用設備の電化検討 • モノジェネレーションシステムの運用見直し検討
	スコープ2	• 再生可能エネルギー調達(年度ごとに目標設定) • 太陽光発電設備の検討、導入 • 非化石証書の他、オフサイトPPAなどのスキーム検討 • 太陽光発電以外の再生可能エネルギーの検討
	スコープ3	• 重要お取引先とスポンサー企業を対象に温室効果ガス排出量のデータ収集を実施
	適応	【夏期のパーク運営の方針定義】 • ハード投資基準の明確化、対策が必要な箇所や手段の見える化(3年程度のロードマップ化)、段階的に対策を推進 • ハード投資できない箇所に対する遮熱環境の促進及び水分補給環境の充足 • 労働力の担保に向けた取り組みの方向性の検討と着実な実行、実施した対策や効果の振り返り
	水	• 節水型設備導入や再生水の利用拡大の推進 • 2030KPI設定に向けた検討
	生物多様性	• 2025年度 リスク評価 • 2026年度以降 取り組みの方向性の決定

マテリアリティの更新

Oriental Land Co.,Ltd.

循環型社会

ありたい姿		投入資源量を低下させながら、分別強化によるリサイクル率向上と廃棄物削減によって社会への環境負荷を低減し、当社ならではの資源循環型の事業モデルを実現します。
2030KPI	入口 ※資源の投入	使い捨てプラスチック：2016年度比総量(重量)25%削減(OLCグループ)
	出口 ※資源の排出	焼却・埋立処分量：2016年度比13%削減(OLCグループ)
	循環 ※資源のリサイクル	リサイクル率：80%(OLCグループ)
2027KPI	入口	使い捨てプラスチック：2016年度比18%削減（OLCグループ）
	出口	焼却・埋立処分量：2016年度比 10%削減（OLCグループ）
	循環	リサイクル率：75%（OLCグループ）
2027年までの活動計画		【廃棄物の発生抑制】 オペレーション見直しによる使用資材の削減や、包材の縮小軽量化などを実施 【素材変更】 環境負荷低減やリサイクルを目的に使い捨てカトラリーや運営備品の素材を変更 【分別環境の整備】 オンステージ、バックステージともにリサイクルを促進するための最適な分別環境を整備

マテリアリティの更新

Oriental Land Co.,Ltd.

経営基盤の強化

ありたい姿		各種法令および社会からの要請であるコーポレートガバナンス・コードに適切に応え続けるとともに、次世代を担う人材を育成し、 企業価値を高め続けられる体制を構築します。
2030KPI	コーポレートガバナンス・コードの遵守	コーポレートガバナンスコードが遵守できており、変化に柔軟に対応し、成長していける状態になっている
	次世代経営人材の育成	人材プール確保に向けた体制が構築でき、サクセッションプランの実現に繋げられている
2027KPI	コーポレートガバナンス・コードの遵守	• 社外取締役の取締役会出席率： 80%以上 • 取締役会の実効性評価： 適正評価と改善の実施 • コーポレートガバナンス・コード： オールコンプライ
	次世代経営人材の育成	経営人材育成サイクルの運用や育成プログラムを実施し、経営人材の確保を進められている
2027年までの活動計画	コーポレートガバナンス・コードの遵守	コーポレートガバナンス改善に向けた情報収集
	次世代経営人材の育成	• 育成サイクルの運用 • 階層に応じた複層的な育成プログラムの展開

株式会社オリエンタルランド　経理部IRグループ
www.olc.co.jp

注意事項：
本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではございません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。
本資料の転載はご遠慮ください。